



かみっこ



すもう大会に向けて

秦野市立上小学校長・幼稚園長 中村 克己
TEL 88-0274 FAX 87-3809

平成26年の大相撲秦野場所を機に大規模改修していただいた土俵も、風雨にさらされ月日の経過とともにメンテナンスの必要に迫られてきました。この間、センダンの会のお父さん方がひびが入った部分をパテで埋めてくださっていました。

そんな折、本校の土俵の状態を聞きつけた、伊勢ヶ浜部屋の後援会の出雲大社の草山宮司さんと石庄そば石井社長さんが、伊勢ヶ浜親方をお願いをしてくださり、今回の改修が実現しました。開校記念相撲大会を、是が非でも実施したい気持ちで準備をしています。

なお、相撲大会は、令和3年5月31日（月）に開校記念日を予定しています。

神奈川新聞

令和3年4月13日（火）神奈川新聞掲載

はっけよい 心待ち



修復は5年ぶり。校庭の隅にある土俵では、同部屋の呼出3人を中心に、住民ら計10

市は1982年、児童の健全な体づくりを目的に市内の全小中学校に土俵を設置した。しかし、管理の難しさから次々と姿を消し、現在は同校のみ。中村克己校長は「児童の相撲大会が地域の伝統となり、PTAや地元住民らが協力して修繕してきたから残ったのではないかと振り返る。

秦野市立上小で土俵修復

秦野市の小中学校で唯一土俵がある同市柳川の市立上小学校で12日、土俵の改修工事が行われた。出雲大社相撲分祠（同市平沢）とゆかりの深い大相撲伊勢ヶ浜部屋の呼出や住民らが協力して劣化した部分を修復した。同小では5月に児童で競う相撲大会が行われる予定で、改修工事の見学に訪れた児童は大会を心待ちにしていた。（最上翔）

伊勢ヶ浜部屋も協力

人が協力しながら土を掘り起す。五穀豊穡を願うとき、ひびの入った土俵内に新しい土を入れた。児童たちはその様子を動画や写真で記録。土を触った4年の熊沢彪牙君（9）は「とても柔らかくさらさらしているのに、固い土俵に変わるの信じられない」と驚いている。

同校では毎年5月31日の開校記念日に、学年別の総当たり戦で行う相撲大会を実施している。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となったこともあり、児童は2年ぶりの熱戦を心待ちにしている。一昨年、2年男子の部で優勝した現在4年の久保寺夏大君（9）は「（大相撲の）遠藤や炎鵬ら体の小さな力士の立ち回り、足の出方を研究してきた。新しい土俵で連覇したい」と意気込む。中村校長は「相撲の文化は上小の誇り。感染防止策を徹底して、開催できるようにしたい」と話した。



④大相撲伊勢ヶ浜部屋の呼出が土を固めていく様子を見学する児童たち⑤呼出が五穀豊穡を願ってこられる角俵を作る様子を見学する児童たち⑥秦野市柳川の市立上小学校